



時事評論家 増田俊男

## キッシンジャー習近平会談(7月20日)で米中関係は決まった

アメリカは、アメリカ・イギリス・オーストラリア(AUKUS)とアメリカ・オーストラリア・日本・インド(QUAD)などで対中軍事包囲網を強化する一方プリンケン国務長官、イエレン財務長官、ケリー気候変動問題特使等高官を中国へ覇権している。

最後の締めくくりは7月20日キッシンジャー・習近平会談である。

習近平が他の高官と異なりキッシンジャーを特別扱いにしたのはキッシンジャーは別格だからである。

キッシンジャーはアメリカの頭脳であり、バイデン大統領も訪中した高官たちもすべて体の一部である。

習近平・キッシンジャー会談は1972年2月21日のニクソン・キッシンジャー対毛沢東・周恩来首脳会談と同じ釣魚台の五号楼で行われ、キッシンジャーは大変感激したと言う。

アメリカの政治指針メーカーあり、政治を主導し、世論を形成する主要シンクタンク(私も一部に関係している)の上にそびえたっているのがキッシンジャーである。

習近平・キッシンジャー会談の発表されない合意は、言うまでもなく米中戦略的パートナーシップでありG2(Group 2)という名の米中二大国による新世界秩序である。

対米追従の日本が巻き込まれているクアッドはアメリカが中国と対等な立場になる為のいわば道具ではない。

岸田総理はバイデン大統領の意向で憲法第9条違反の三法改訂(自衛隊に敵地先制攻撃能力を持たす)に踏み切り、クアッドで普通の国(自主防衛国家)として責任を果たそうと必死になっているが、やがて御用済みで捨てられることになることになると私なりにアドバイスしたが、安倍内閣の時は官邸にルートがあったが、岸田内閣には知り合いがないので、伝わっていないようだ。

1979年1月1日に締結された米中平和友好条約の基盤となった基本合意は1972年2月21日のニクソン・キッシンジャー対毛沢東・周恩来会談であった。

当時の田中角栄首相はアメリカに約7か月遅れの1972年9月25日に田中・周恩来会議で国交正常化合意、そして日本はアメリカより約5か月早い1978年8月12日に日中平和友好条約を締結した。

安倍内閣存続中幹事長を務め、親中派と知られる二階俊博は林現外務大臣の後を受けて超党派の日中議員連盟の会長に就任し、近々訪中の予定である。

アメリカが仕掛けた米中冷戦だがアメリカは勝てないことが分かったので高官の中国詣、さらにキッシンジャーのお出ましで冷戦の幕引きをしようとしている。

日本はこの隙を狙って「漁夫の利」を得なくてはならない。

親中派二階俊博の訪中で、日中のあるべき筋道をつける時が来た。

岸田はアメリカに捨てられるまで対米一辺倒でいい。

日本はアメリカより先に日中戦略的パートナーシップの合意をして、またもやキッシンジャーを怒らせればいいのである。

### 大好評発売中！増田俊男の小冊子 Vol.135

『「資本の意志」を知ればすべてが分かる！』

現在増田俊男の小冊子 Vol. 135 は先行受付中です。内容は、\*イエス・キリストは「神の意志」を伝え、増田俊男は「資本の意志」を伝える \*「資本の意志」はアンチ・ヒューマニズム \*「資本の意志」の伝道者 \*「資本の意志」が求める Scrap & Build (破壊と建設) \*日本：待てば海路の日和かな \*日本：待てば海路の日和かななどです。価格は、1冊 4,800 円(税・送料別)。

詳しいご案内、お申込みについてはマスダ U.S. リサーチジャパン株式会社 (FAX: 03-3956-1313、HP: <http://chokugen.com/>) まで。

「時事直言」の文章及び文中記事の引用をご希望の方は、事前にマスダ U.S. リサーチジャパン株式会社 (FAX: 03-3956-1313) までお知らせ下さい。